

目標

・男女共同参画社会の実現に向けて、固定的な性別役割分担意識について考える。

◎：人権教育上の配慮

展開例

学習活動

導入

- 1 資料1を見て気付いたことを発表する。
- 2 学習課題を確認する。

展開

- 3 家庭の仕事（炊事、洗濯、掃除、育児、介護等）を自分の家では、誰が行っているかを考え、発表する。
- 4 なぜ男性が家事をやるのが女性よりも少ないのかを考え、発表する。
- 5 資料2を見て、男性の育児休業取得率が伸びない理由について考え、発表する。

まとめ

- 6 男女共同参画社会の実現に向けて、家庭内で自分ができることを発表する。

指導上の留意点

- ・資料から家庭生活にはさまざまな仕事があることに気付かせる。
- ・意見を自由に出し合う雰囲気をつくる。

- ・自分の家庭では、男女の役割分担が固定化されていないかを考え、発表させる。

- ・資料を活用し、家事について男女の生活時間の差に注目し、理由を考えさせる。
- ◎固定的な性別役割分担意識に気付かせ、男女共同参画の大切さを考えさせる。

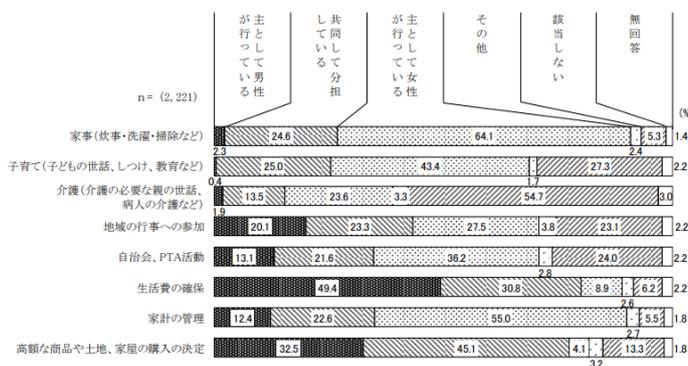
- ・他教科での学習内容についても想起させ、男女共同参画社会の実現に向けて自分ができることを考えさせる。

資料

資料1 令和2年度「男女共同参画に関する意識・実態調査」
https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/181905/06_vol4_tyousakekka.pdf

資料2 令和5年版厚生労働白書
<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/22/dl/2-01.pdf>

図表2-1 家庭生活での役割分担



図表1-8-1 育児休業取得率の推移

